

平成24年度

ウチナーンチュ子弟留学生修了報告書



沖 縄 県

財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

はじめに

ウチナーンチュ子弟留学生受入事業は、海外に在住する沖縄県出身移住者子弟から優秀な人物を県内の大学や県内企業、伝統芸能修得機関（以下「大学等」という。）で修学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を通して、将来的に本県と県系人社会とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、本県と出身国との国際交流に寄与せしめることを目的としています。

本事業は前年度まで実施しておりました沖縄県海外留学生受入事業を再構築し、沖縄の伝統工芸製作技術の修得を目指す伝統芸能修得コースや県内企業での研修を行うコースを新たに設けています。

昭和44年度（1969年）の事業開始以来、本年度を含め584名の留学生を受け入れてきました。本事業を修了し帰国した留学生OB・OGは、沖縄で習得した知識と経験を生かし、様々な分野において活躍しており、また、県人会活動にも積極的に参加するなど、母国と本県とのネットワーク拡充に貢献しております。

平成24年度は、アメリカ合衆国より1名、ブラジル2名、ペルー1名、アルゼンチン2名、ボリビア2名、イギリス1名の合計9名を受入れ、そのうち1名が琉球大学、3名が沖縄県立芸術大学、3名が名桜大学、1名が沖縄大学、1名が沖縄県三線製作事業協同組合において勉学や技術修得に励みました。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学での修業成果等をまとめたものです。学内スピーチ大会や課外活動、沖縄での親戚や友人等との交流など、様々な経験を経て成長していく姿を垣間見ることができると思います。本書が、当事業理解の一助となれば幸いです。

最後に、本事業実施に当たり、留学生を受け入れていただきました琉球大学、沖縄県立芸術大学、名桜大学、沖縄大学、沖縄県三線製作事業協同組合並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成25年3月

沖縄県文化観光スポーツ部長
平 田 大 一



平成24年度 ウチナーンチュ子弟留学生修了式

平成24年度 ウチナーンチュ子弟留学生修了式 平成25年3月12日 於・サザンプラザ海邦

財団 金武理事長表敬 平成 24 年 9 月 21 日 於：財団 3 階ホール



上原副知事表敬 平成 24 年 5 月 11 日 於：県庁 6 階 第二特別会議室



目 次

○ウチナーンチュ子弟留学生 (9名)

・ 伝統工芸品	奥間 オマール イグナシオ……………	1
・ 私の心のふるさと	デイグルート 大城 トーマス……………	3
・ ひさしぶりにはじめての沖縄	仲原 ダニエル 英洋……………	7
・ 沖縄の宝物を見つけた	伊集 ジュリアナ 小百合……………	10
・ Okinawa mi amor...	新垣 照屋 ジェシカ……………	14
・ 沖縄に来て気づいた事	津嘉山 アンリ……………	19
・ この一年間の歩み	比嘉 カロリーナ アンドレア……………	22
・ ただいま	伊礼 リリアン 美樹枝……………	26
・ 長いようで短い一年でした	平良 美紀……………	31

平成24年度 ウチナンチュ子弟留学生名簿

<p>奥間 オマール イグナシオ</p>  <p>出身地：アルゼンチン</p> <p>沖縄県三線製作事業協同組合 三線製作</p>	<p>津嘉山 アンリ</p>  <p>出身地：ボリビア</p> <p>沖縄県立芸術大学 科目等履修生 デザイン専攻</p>
<p>デイグルート 大城 トーマス</p>  <p>出身地：イギリス</p> <p>沖縄大学 科目等履修生</p>	<p>比嘉 カロリーナ アンドレア</p>  <p>出身地：アルゼンチン</p> <p>名桜大学 科目等履修生</p>
<p>仲原 ダニエル 英洋</p>  <p>出身地：アメリカ合衆国</p> <p>琉球大学 科目等履修生</p>	<p>伊礼 リリアン 美樹枝</p>  <p>出身地：ブラジル</p> <p>名桜大学 科目等履修生</p>
<p>伊集 ジュリアナ 小百合</p>  <p>出身地：ブラジル</p> <p>沖縄県立芸術大学 科目等履修生 琉球舞踊組踊コース</p>	<p>平良 美紀</p>  <p>出身地：ボリビア</p> <p>名桜大学 科目等履修生</p>
<p>新垣 照屋 ジェシカ</p>  <p>出身地：ペルー</p> <p>沖縄県立芸術大学 科目等履修生 琉球古典音楽コース</p>	

伝統工芸品

奥間 オマール イグナシオ (アルゼンチン)

一ヶ月でステップワールドに日本語の授業がありました。普通の会話のことを学んだからとても便利でした。島袋先生、大山先生、そして中川先生と授業をしながら色々な会話をしました。今はその時に比べたらもっと上手になったけどまだまだ足りません。



三線製作研修の最初の一ヶ月は、安里の三線店で仲嶺幹先生が道具の使い方を教えてくれました。そのあとに、浦添の三線店で仲嶺盛文先生と照屋さんが棹の作り方を教えてくれました。作り方がまだあまり分からなかったのも、その時作った棹がきれいじゃありませんでした。



棹を作りながら三線のほかの各部をやって見ました。例えば人工と本皮の張りや本皮の皮縫いなどです。ほとんど一通りやりました。皮張りには音を確認すること、そして皮縫いは一番難しいことでした。

6月に三線組合の三線大学というイベントに参加しました。三日間で自分の棹を作りました。私はまだ上手ではないのでたくさん心配なところがあります。今、この作った棹を見てもったいないと思います。でも、いい経験でした。他の三線屋さんのアドバイスももらいました。

その時は月曜から土曜まで8時間働きました。それで、時々他の留学生と遊びに行って、エイサーを練習して、市内を回りました。

11月に三線組合の展示会があったから10月から安里の店に戻りました。棹の仕上げを手伝い、三線の仕上げをしながら、自分の展示作品をしました。その作品の為にカラクイとティーガと皮のくさび張りをしました。



今回はアルゼンチンの国旗のイメージで作りました。カラクイは普通の六角カラクイの形でした。ブルーとホワイトとブルーの頭を作りました。その為に、カラクイ専門の渡慶次さんに相談しました。先の玉の付け方などいろいろなアドバイスをもらいました。

ティーガはシンプルなデザインだけど手縫いは大変でした。

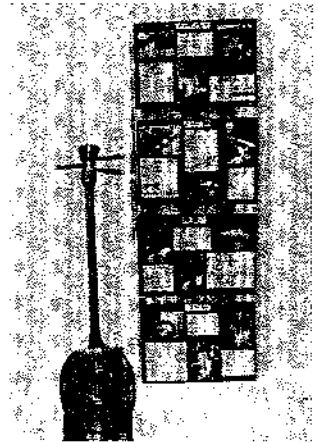
三日間ずっと縫いました。曲がるところが一番難しかったです。

ここで本皮の伝統的な張り方を初めて見ました。幹先生が簡単そうにしました。でも、私がやった時、難しかったです。くさびを早く、強く打ち込まなければなりません。

三線の仕上げと棹をたくさんしましたから、だんだんきれいになりましたが、まだ時間がかかります。幹先生がいつも「早く、キレイに」と言っていたのを思い出します。

このように三線屋さんの生活を習いました。頑張っても、遅くまで働いて、あんまり遊びが出来ません。大変です。

研修以外に琉球國祭り太鼓でエイサーをやっていました。毎週2～3回練習しました。色々なイベントに参加しました。例えば全島エイサー祭りと一万人エイサーなどです。練習に参加出来て、お世話になりましたので、那覇支部のみなさんに感謝しています。琉球國祭り太鼓の30周年記念公演で海外のメンバーがたくさん来てくれたのでとても嬉しかったです。



研修は一人でやっていたので他の沖縄県の人と交流があまりなかったけど、留学生と前に知り合った人から新しい友達を作ることが出来ました。さらに、前の研修の真壁先生から去年の市町村の海外移住者子弟研修生を紹介してもらいました。休みの日に一緒に遊びました。

この留学の最後が大変でした。卒業で三線の棹「江戸ユナー形」とチーガとカラクイと本皮を全部自分で作って、修了式の準備をしました。また、エイサーの公演の為に二週間、毎日練習に参加しました。この卒業作品は三線の日のイベントに展示されました。

この報告書を書きながらいろんな感情があります。アルゼンチンと南米からたくさん友達が来たので嬉しいですけど、一緒に遊ぶことがあまり出来なかったのが悲しいです。でも、研修とエイサーをがんばり、多くの人と交流を深めました。また、新しい目的が出来ました。沖縄で習った事をアルゼンチンで伝えたいと思います。おじいちゃんとおばあちゃんが宝だという楽器を広げたいと思います。

最後にみんなにあがりとうと言いたいです。本当にこの研修がとても楽しかったです。誰もがこのような研修を受けることは出来ませんので、私はとてもラッキーだと思います。

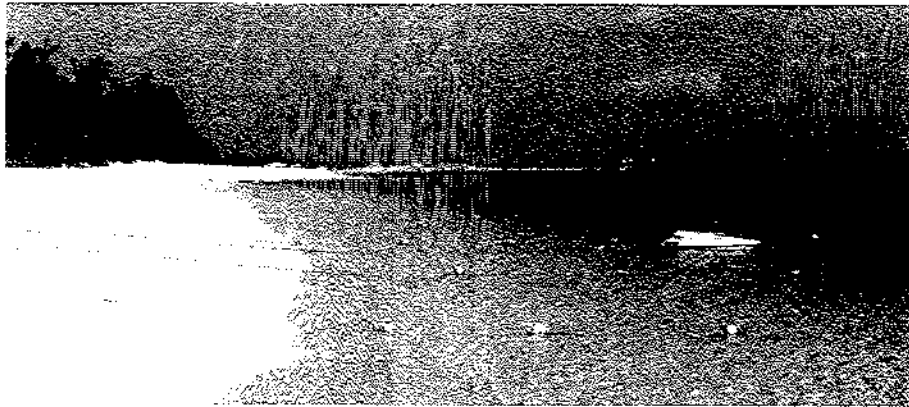
ありがとうございました！



私の心のふるさと

デイグルート 大城 トーマス (イギリス)

私はイギリス人のデイグルート大城トーマスです。沖縄に来るのは二回目です。一回目は六歳から八歳の二年間で、水納島に住んでいました。沖縄に帰ってこられるなんて、夢みたいいです。久しぶりに沖縄に住んでる親戚に会いました。また、おばさんが近くに住んでいるので、毎週晩ご飯を食べに行きました。ゴールデンウィークのときには、約20年ぶりに弟と水納島に行き、とても懐かしい気持ちになりました。海とビーチはとても美しいし、人は優しいし、すごくりラックスができました。



私はこの一年沖縄大学で勉強しました。毎日日本語を勉強するのが18年ぶりだったので子供のときに戻ったような気持ちでした。でも、日本語がだんだん戻ってきたので5月に中級クラスに入りました。最初は難しかったけど、先生達と相談して中級クラスに残ってそのレベルの日本語を挑戦しました。先生達のおかげで中級に合格も出来たし、JLPT N3も合格出来ました。4月の事を考えたらスピーチ発表会みたいな事は絶対無理でしたので、先生達に感謝しています。

沖縄大学のサッカー部に入りました。イギリスで小さい時からサッカーをやったので、新しいスタイルを経験できたのが楽しかったです。日本語の勉強にもなったし、友達も出来たので、いい思い出になりました。

沖縄の家族は18年ぶりに会いました。もう一度会えたのが私にとってとても大切な思い出です。おばさんの家で晩ご飯を食べたり、いとこの子供の野球大会、運動会を見に行ったり、一緒に勉強するのがすごく楽しかったです。そして、「自分は誰なのか」ということがだんだん分かってきたと思います。





県費留学生のパフォーマンスを見るのが楽しかったです。皆が毎日練習していたので、いいパフォーマンスができて嬉しいです。これを見て、自分のルーツの文化をまた少し分かったかと思います。

夏休みが始まる前、沖大の留学生と先生方とビーチパーティーがありました。バーベキューやスイカ割りをしたり、たくさん話したりして楽しかったです。先生方と初めて教室のそとで話していい思い出になりました。

県費のダニエルさんとインターンシップを体験しました。沖縄県農林水産部園芸振興課についていろいろ話を聞きました。新しい世界を見て勉強になりました。

担当の呉屋さんと県費の三人の友達とエイサーを見に行きました。参加してた人は五時から始まったので「偉いなー」と思いました。二つのチームが道で向かいあって競っていました。すごく強い音が出て楽しい経験でした。この音についてエイサーに反対してる人もいると話を聞きました。でも、特別な沖縄文化が続くようにみんなで考えてみる事が大切だと思います。

このほかにも、県費の学生と水納島に行きました。台風のおかげで一泊だけだったけどすごく楽しかったです。小学校で僕と家族が写っていたアルバムを見て思い出がたくさん蘇ってきました。家族の故郷と私が2年間住んでたところを皆さんに見てもらって嬉しかったです。



日本語能力試験を受けました。文字の試験が一番難しいと思いました。合格できたらすっきりします。日本で試験を受ける時はとても厳しいルールがあるそうなので少し驚きました。例えば、試験が始まる前に鉛筆を触ってもだめでした。

沖大の留学生とあふそ中学校に行きました。8人の中学生が沖縄・琉球文化についてお話とクイズをしてくれました。そして留学生4人が自分の国について発表しました。僕はイギリスのクリスマスを紹介していい思い出になりました。



沖大で紅型のTシャツを作りました。とても楽しい経験でした。僕はシーサーのデザインを選んで細かく色を入れました。紅型の先生に誉められて嬉しかったです。



担当の呉屋さんがサーフィンに連れて行ってってくれました。サーフィンは二回目だったからボードに立つことができなかったけどとてもいい経験でした。呉屋さんと周りの人は上手で見るのも楽しかったです。イギリスに帰っても続けたいと思っています。

沖縄平和記念公園に行きました。辛い話はあるけど、戦争は起こってはならないという事を改めて感じました。亡くなった人の思いを大切に思うので、とても悲しいけど大切な経験になりました。

斎場御嶽に行きました。とても穏やかな場所だったので心も穏やかになったと思います。沖縄には色々な世界遺産があるので帰る前に全部行きたいと思っています。



やんばるの琉球藍ワークショップに行きました。スカーフを作れる事ができてとても楽しかったです。前にデザインの仕事をしていたこともあり、工場で作っている商品はイギリスのお客さんにも人気が出ると思いましたが、前の仕事の課長に紹介しました。

県費留学生生活は三月に終わりました。一年間だったけど、3ヶ月みたいな気持ちです。イギリスでは”Time flies when you're having fun”と言う諺があります。日本語の勉強も楽しかったのでこの諺は僕の気持ちにぴったりです！

日本語能力試験 N3 を合格しました。先生達のおかげで合格できたので感謝しています。

沖大の留学生スピーチ発表会に参加しました。僕は一番最後に発表しました。少し緊張してたけど「いい内容だった」と言われたのでとても嬉しいです。

沖縄に来ていろいろな国の人と出会いました。中国、韓国、台湾、タイ、ミャンマー、インド、イタリア、ドイツ、アメリカ、ボリビア、アルゼンチン、ブラジル、ペルー。さまざまな国の人と話ができて、外国の文化についても少し分かってきたと思います。そして世界にはいろいろな価値観があるということに気づきました。自分の価値観が正しくて他の人の価値観が間違っていると決めつけるのではなく、ただ他の価値観にも寛容になって受け入れることが大切だということ学びました。私はやはり寛容さが大切なのだと分かってきたと思います。

この一年沖縄に留学できて、とてもありがたく思っています。自分のルーツである母のふるさとをもう一度見ることができました。でも一番よかったのは「自分は誰なのか」ということがだんだん分かってきたことです。今私は、自分はイギリス人でもなく、日本人でもなく、ウチナーンチュでもなく、「世界人」だと思っています。

この一年で学んだことを、将来に活かしたいと思っています。自分と異なる考えを持った人とも仲良くできる自信があります。すぐに仲良くなれなくても、忍耐強く理解し合えるようにしたいと思っています。どの国から来ても、どんな文化を持っていても、皆同じ人間なのだから仲良くするのは難しくないでしょう。

沖縄生活で学んだいろんなことが、思っていたよりもずっと僕に影響をあたえました。いつまでも沖縄生活にありがたい気持ちを持ちます。ありがとうございました！

ひさしぶりにはじめての沖縄

仲原 ダニエル 英洋

はじめての方にこんにちは、そうでない方はお久しぶりです。県費留学生の仲原ダニエル英洋です。平成24年度ウチナーンチュ子弟留学生のアメリカ合衆国の代表として選ばれて、約一年間、沖縄の琉球大学へ通い、勉学に勤しんでいました。あたたかく迎え入れてくれた沖縄県民と私を支えてくれた県庁と財団の皆様のおかげで、私たち県費留学生は修了式を迎え、無事に一年間の留学を終えました。私にとって掛け替えのない経験になったこの機会を与えてくれた沖縄とアメリカ沖縄県人会に、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



今回の留学で、私は2012年の4月から2013年の3月まで沖縄に滞在しました。はじめて外国での長期滞在でした。琉球大学へ入り、中級・上級組（通称「一組」）の授業を受けることになりました。そこで、私と同じ留学生と一緒に日本語と日本・沖縄事情を勉強しました。世界の色々な国から沖縄に集まってきた学生と会話を交わし、意見を出しあったり、一緒に遊んだりして、沖縄だけでなく、世界を身近に感じました。

2012年の春は私にとって早く過ぎた季節と感じざるを得ませんでした。地元であるシアトルとの環境が大いに違っていたため、いきなり夏に放り込まれた気分でした。あの春の強い日差しは、今でも忘れられません。住民登録や身体検査など、学生の親睦会や親戚との再会で、あっという間に沖縄の夏になりました。この期間、私は自分と同じ県費留学生とはじめて会いました。普通なら言葉が通じるはずのない相手なのに、日本語という共通の言葉があって、はじめて繋がりを作ることに、感動と喜びを感じました。

他に、沖縄日本復帰40周年の式典に参加しました。これに対して、日本、アメリカ、そして沖縄の立場や意見を大幅理解していたつもりでした。

2012年の夏、私ははじめて本格的な梅雨を体験しました。アメリカにはほとんどない、日本の第五の季節は厳しかった。その厳しさの中に、私は迎えるべき課題に取り掛かりました。6月から、私たち琉大生は平和学習をはじめました。沖縄の歴史を勉強し、平和について語り合いました。何度聞いても日系アメリカ人としては複雑な話です。しかし、沖縄の基地問題が今現在続いている最中だからこそ、学ぶべきものだと自負しています。私は未だにその平和への道の答えは分かりませんが、少なくとも外国語の勉強と文化の理解が大きく関わっていると思います。

夏休みに入った途端、私は夏風邪をひいてしまい、しばらく安静にしました。体調が回復した後、私は財団と県庁主催のインターンシップに参加しました。3日間に渡り、農林水産業の活動と施設の見学をしました。ワシントン州と異なる栽培法と病害虫対策に感服しました。以前から産業に興味を抱いていたため、大変勉強になりました。

2012年の秋に、季節の変わりにも関わらず、残暑の厳しい日々を送りました。さらに最後の勢いを見せつけるように、激しい台風が上陸しました。琉球大学の後期のはじまりと一緒に、新しい留学生が入学する時期を迎えました。この間、私たちは親睦会や新入生案内で忙しくなり、これといった出来事が少なくなりました。

新入生たちが落ち着いたころ、私たち県費留学生はJICAフェスティバルで、自分たちの出身国を紹介する展示会を開くことになりました。私はアメリカ全体については詳しくもなかったため、地元のワシントン州を紹介することにしました。このイベントで、私が当たり前だと思っていた地元の風景や風習が、外国の方にとって珍しいものだと、改めて思い知らされました。お客様に、少しでもワシントン州や外国に興味を持たせることが出来たのならうれしいかぎりです。

2012年の冬、クリスマスを手静かに過ごし、沖縄で新年を迎えました。三が日は親戚とホテルに泊まったり、挨拶に回ったりしました。沖縄に来て以来、私生活面で大変お世話になりました。

新年を迎えて、私たち琉大生は恒例の「留学生による弁論大会」の準備に取り掛かりました。この大会は、留学生がおのおの興味を持ったものを課題に5～7分間演説する大会です。琉大では私たち一組は特に注目されていました。この大会で、私は「寿限無」について語りました。大学の代表者の一人として県大会に出場しましたが、残念ながら優勝は出来ませんでした。しかし、他の参加者の演説がとても上手で、色んな話を聞くことができ楽しかったです。

2013年の2月を持って、私たち留学生は全ての授業を終え、春からの研修生たちは無事に修了式を迎えました。そして2013年の春、私たち県費留学生の修了式も執り行いました。県庁の皆さん、財団の皆さん、そして副知事や学長からも祝福の挨拶をもらいました。長かったような一年間が、ここで終了を迎えました。

私はこの一年間、たくさんの国のたくさんの人と出会いました。楽しい時も、苦しい時も、手を取り合い、掛け替えのない思い出を作りました。私もはじめて体験する経験をたくさん得ることができました。最後帰国する前に、日本本島へ旅行することもできて、祖父母の新しい住宅に泊まることもできました。これ以上ない一年間を過ごして、私はとても幸せです。

私は未だに将来を決めていませんが、日本、沖縄、そしてアメリカの架け橋になれるよう、日本語と文化の勉強を続けて、いつか教師になってみたいと思います。その時私は、この経験があったからこそ出来たと、沖縄での日々を思い返すでしょう。



沖縄の宝物を見つけた

伊集 ジュリアナ 小百合 (ブラジル)



私は琉球舞踊太圭流華の会の伊集ジュリアナと申します。ブラジルで生まれた日系三世です。

2012年に沖縄を訪れたのは2回目になります。県費留学生として、沖縄県立芸術大学で1年間の間に琉球舞踊と組踊りを勉強しました。

4年前に北中城村の研修生として、始めて沖縄に行きました。その時、研修は3ヶ月の間に日本語と沖縄の文化を勉強しました。3ヶ月終わった後、そのまま1年間を延ばして、太圭流華の会の家元の佐藤太圭子先生の家に住み込みで琉球舞踊を勉強しました。そして、沖縄タイムスのコンクールで新人賞を取りました。帰国する前に、ブラジルの人々に琉球舞踊を教えるために、家元から教師免許をもらいました。琉球舞踊の先生になりましたが、持っている経験が足りないはずと思っていたいました。芸大で勉強することの機会をいただきましたので、県庁と財団の皆様になつまでも感謝します。

初めて沖縄に行った時に、たくさんの琉芸の先生方と出会いました。その先生方の舞台を見に行つて、すぐファンになりました。芸大で、ずっと前からあこがれていた先生方に教わるのは夢みたいでとても嬉しかったです。

また、一年生達がとても明るいし、優しいし、すぐ仲良くなって、1年間はとても楽しかったです。



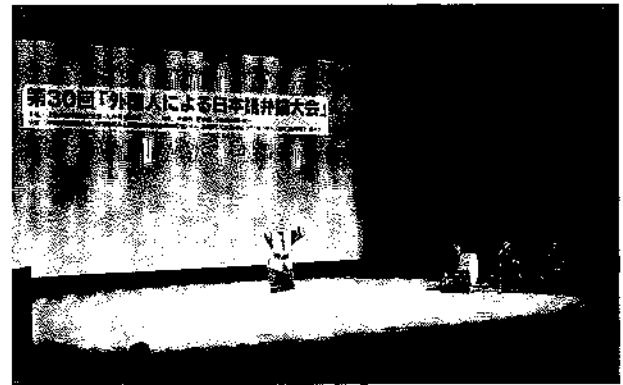
芸大に通いながら、優秀賞を取るために、佐藤太圭子琉舞練場も通いました。稽古は大変でしたが、コンクールの時に先生たちと親せきたちと友達が応援してくれました。その御陰で合格しました。



芸大とコンクールだけじゃなくて、いろいろな舞台に出ることが出来ました。首里城と国立劇場公演などにも踊りに行きました。一番の思い出は比嘉幸子先生というとても仲の良い先生の職場で毎月誕生会の時に踊りに行ったことです。お祖父ちゃんとお祖母ちゃんたちに喜んでもらい、琉球舞踊を習っていることはとてもよかったなと思いました。ブラジルに帰ったら、ブラジルにいるお祖父ちゃんとお祖母ちゃんたちのためにずっと踊りたいです。一番好きなことをしながら、みんなを幸せにしたいと思います。そうすれば私も幸せになります。



2012年から沖縄に来て、いろいろなイベントに参加出来たことが私にとってはちょうど良いタイミングでした。沖縄復帰40周年記念式典はその一つでした。そして、県費留学生として、毎年行われるイベントにも参加しました。そこで演奏をしたり、交流したりしましたので、とても楽しかったです。



今回も親せきたちに会えて良かったです。親せきの結婚式とお盆の時に一緒に踊りました。そして、お正月と一緒に過ごしたので、とても楽しかったです。また、困った時には彼らが助けてくれたりして、私は本当に恵まれていると思います。遠い親せきですが、とても近い親せきだと感じています。



今回、県費留学生として、たくさんの勉強が出来ました。だけど、忘れられないことは沖縄の人々の優しさを強く感じたことです。その気持ちを宝物のように大切に、頑張っていきたいと思っています。

帰国したばかりですが、沖縄の人々にまた会いたいです。また会える日を楽しみにしています。

Okinawa mi amor...

～わんね～新垣ジェシカやいびーん。ペルーからチャーびたん。～

新垣 照屋 ジェシカ (ペルー)

私は沖縄県立芸術大学で古典音楽の勉強をしました。琉球古典音楽の勉強は沖縄に来てからが初めてです。以前は民謡しか練習していませんでした。最初は三線を弾くことにあまり興味を持っていませんでしたが、父が日本に住んでいる叔父に三線を頼みました。そして、私は元々ギターを弾いていたので、三線も弾いたらと言われ友達に三線を教えてもらいました。最初はあまり好きではなかったのですが、歌の意味を教えてもらったからおばあのことを思い出して、感動してとても興味が沸きました。

私はペルーの「ハイサイ沖縄」と言う民謡グループに参加しています。このグループは色々なイベントで演奏をします。特に、沖縄県人会で行うイベントやお祝い、結婚式などです。そのイベントでは、おじい達がいつも手拍子をしたり踊ったりしてみんな盛り上がるので演奏するのは楽しいし、とても感動します。そして、私はもっと上手になりたいと思うようになったのですが、ペルーには三線の先生がいなかった所以で沖縄で古典音楽の勉強をするためにこの県費留学に参加しました。

始めて学ぶ古典音楽は最初はとても難しかったです。私は大学で一年生と一緒に勉強をしました。私はみんなよりレベルが低かったので負けないように頑張りました。先生方もとても優しく助けてくださいました。同級生も私達が留学生であるにもかかわらず話しかけてくれたり、南米の事に興味を持ってくれたり、困った時も助けてくれたりしてありがたかったです。そして、授業以外でも色々な交流が出来てとても楽しかったです。

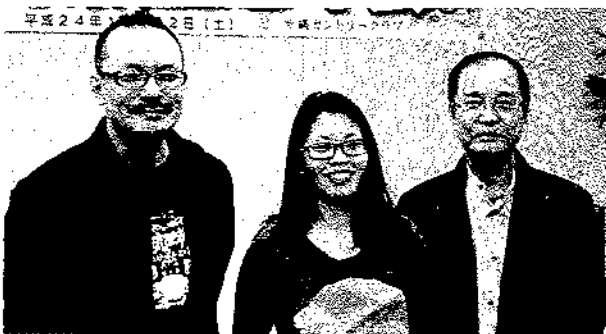


芸大の中では専攻の授業以外の授業も受けました。例えば太鼓とか笛、胡弓、箏、などです。その中には史書研究と言う授業も取り、歌碑めぐりをしました。いろんな歌碑について先生が説明してくださり、歌碑の前で踊ったり三線をひいたりしました。

沖縄に来て初めて琉球笛も学びました。すぐこの楽器が好きになりました。そして、習いはじめたころから先生からいつもコンクールに参加してみなさいと声をかけていただきました。沖縄では地元の新聞社が「琉球古典音楽のコンクール」という試験のようなイベントをします。私は三線のコンクールには間に合わなかったのですが、笛も大好きになったので笛のコンクールを受けて合格しました。とても緊張しましたが感動もして、貴重な経験になり良かったです。

また、大学では古典音楽のみを学んでいたのですが、私は大学の三線の先生から泉川寛先生と言う民謡の先生を紹介していただきました。泉川先生のご尽力のおかげで無理だと思っていたコンクールの申し込みもなんとか出来て、コンクールでは無事に合格できました。そして、合格者のうち二位を取ることができ、芸能祭では独唱を歌いました。この時はコンクールより緊張したけど、楽しかったです。

芸大には一年間に三つの琉球芸能の選考の演奏会がありました。学内演奏会という舞台が二回あって、四年生達が演目を決めます。また、10月ごろには定期公演という舞台もあり、今度は先生達が演目を決めます。私はこの三つの演奏会に参加しました。最後の学内演奏会で独唱をされると言われた時、最初はあまり自身がありませんでしたが先生と相談して参加することになりました。一ヶ月間一生懸命練習して、休みの時でも先生と一緒に稽古して頑張りました。先生もとても助けてくださったので感謝しています。

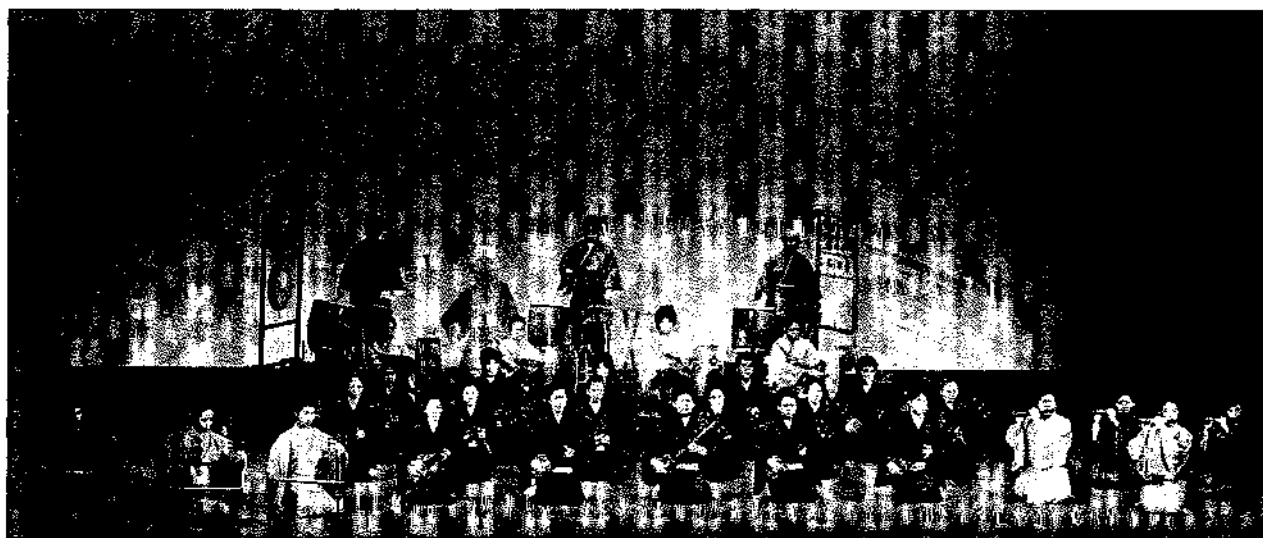


本番まで頑張って、この舞台が多分今までで一番緊張したと思います。しかし一番感動した演奏でもあります。なぜかと言うと私は沖縄に来てぜんぜん古典が出来ませんでした。でも、この時は難しい曲を独唱することができました。そして、私はおばあを思い出しながら演じました。本当にいい勉強になりました。

私は、県費留学生として大学で勉強するだけではなく、学外でも色々な経験をしました。

この県費留学で私は始めて沖縄に来ました。私が三線を弾くのは、自分のルーツに近づくためと、歌の意味を理解することで私をかわいがってくれたおばあを思い出せるからです。ですから、沖縄でおばあのご郷を見なければいけないと思いました。

父は北中城村出身なので、父が住んでいた家を見に行きましたが、その日はあいにく誰もいませんでした。しかし父やおばあのご家の周囲が見られてとても感動しました。



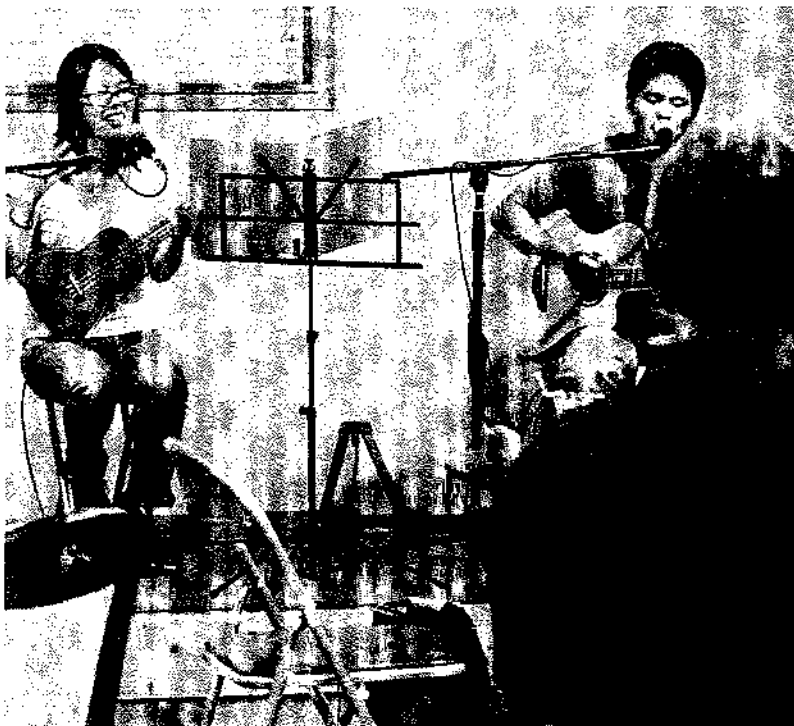
また、南風原町の親戚に会いに行った時、みんなと会うのは初めてなのになぜそんなに優しいのかと思いました。しかし、この気持ちは親戚だけではなく、初めて会う人に対してもこの気持ちがしました。「いちゃりばちよーでー」とはこのことだと初めて感じて本当の意味が分かりました。

沖縄ではいい事がたくさんありましたが、驚いた事が一つありました。それは他の国で生まれたウチナンチュは沖縄の文化や芸術を伝えるために頑張っているのに、沖縄に住む若い人たちはそれにあまり興味がないか、あまり分からないようだということです。これは、学校であまり沖縄の事を教えず、日本の事を教えるからかもしれません。それで、沖縄の若い人はウチナンチュとしてのアイデンティティを無くしてしまっていると思いました。そんな時、友達から子供のウチナーグチのサークルの手伝いに誘われました。このサークルは若い親達が開いています。この若い親達は子供達と一緒にウチナーグチを学ぶために作りました。この人たちから「今はウチナーグチを話す人が少ない、そしてウチナーグチが無くなったら、沖縄の文化も無くなる」と言われて、私もとても心配しました。このサークルはだんだん大きくなってきていて、スポンサーも増えてきているようです。ですから、みんなで沖縄の素敵な文化が無くならないように頑張らないといけません。

この一年間、沖縄の事をたくさん学んで、いろいろな経験もして、たくさんの友達も作ったので、本当に楽しくて帰りたくないです。でも、学んだことを全部ペルーに持ち帰って、ウチナンチュの若い人達に伝えたいです。そして、たくさんの人の沖縄への興味が深くなることを願います。

沖縄のみなさんこの素敵な一年間、くくるから いっぺーにふえーでーびたん。





沖縄に来て気づいた事

津嘉山 アンリ (ボリビア)

1. ボリビアを想ってくれている人がいっぱい

今まで自分の周りにはいる日系人の存在が当たり前だったのですが、沖縄に来てどれだけ海外に住んでいるウチナンチュが大事にされているかを知りました。

沖縄に来てボリビアへボランティアで行った方々や、はけん教師、JICAの方々にお世話になりました。

会った事もない方にもフレンドリーに話しかけられ、「ボリビア行った時はみんなにお世話になったよ」と語ってくれます。ボリビア留学生として来た私にもすごく親切にしてくれました。

そういう交流のキャッチボールがある事は沖縄に来て気づきました。

2. おじいおばあのごさ



NGOさんが企画された「ワークキャンプイン糸満」に参加しました。沖縄戦争の体験者の話を聞くことで、より戦争の事を身近に感じる事が出来ました。

今までは昔の事で自分とは関わっていない事だと思っていたのですが、話を聞いて「伝える」の大事さを知りました。

若者うちなーんちゅメンバーの方々と一緒に移民勉強も出来てよかったです。

移民写真集におじいちゃん達の写真をみつけ、もっとおじいちゃんおばあちゃんと話したい！と言う気持ちが高まりました。

うちなーグチサークルにも参加しました。ボリビアでは祖父母が当たり前話している言葉を「覚える」と言う新しい経験をしました。

3. 伝統がくれたつながり

紅型を体験してみたい！という気持ちが、紅型アーティスト横井ゆうすけさんに出会うきっかけになりました。話しやすい方で、紅型の技法を丁寧に教えてくださいました。

奥さんがかんぷーをセットしてくれました。ジーファーをつけてもらい、「ジーファーって重いのだ！」と実際に体験してみないとわからない事に気づきました。

祐介さんが作った紅型の着物も着せてもらい貴重な思い出になりました。

「紅型」がくれた新しい私の沖縄の家族です。

大学ではシーサーも作りました。「シーサーは作っている本人に似るらしいよ」とおもしろい話をしながら、楽しい時間を友達や先生とすごせました。

作った紅型作品やシーサーは物としてあるのですが、私にとっては出来上がるまでのプロセスが色々な方々とつながるきっかけとなり、思い出がこもった作品となっています。

4. 「自分」を見せる大事さ

芸大で展示会に参加しました。

自分が作った作品を展示会にだすのは初めてで、違う専門の先生や生徒、一般人の方々に見せる機会があって本当に良い経験と思い出になりました。

紅型てんとう虫ストールや、移民をテーマにしたアニメーション、クリスマスカード、そして感想ノートに見に来てくれた皆さんからのメッセージが嬉しくて力になりました。

5. 楽しく伝える楽しさ

沖縄県立博物館のグッツ提案の授業では「沖縄のお家をわかりやすく可愛く作ってみよう！」と思いとびだし絵本を作りました。

それをプレゼンする機会もあり、勉強になりました。

芸大デザイン科で一年勉強してきて多くのプレゼンをやってきました。クラスメートのプレゼンを見るのも参考になりました。

6. 家族のつながり

初めて会う親戚に「ぐしけんのおばあに似てるねえ」とか「お父さんの鼻だね」と言われて、初めて会う人たちなのに両親やじいちゃんばあちゃんの事を知っていて「家族のつながり」を感じました。

8月には両親が沖縄に来て、親戚に会う機会が増えておいしい物いっぱい食べました。

7. 国を紹介する楽しさ

NGOと県庁の皆さんと学校訪問に行ってきました。

羽地中学校や、海の景色が素敵なこうり小学校で留学生みんなと国を紹介しました。

ちゃんと伝わるかな？と不安だったのですが、子供の頃から気になっていてずっと食べたかった給食も食べられて、学校の子供達ともおしゃべりできて最高の思い出になりました。

大学でもボリビア紹介が出来てクラスメートや先生、先輩方も見に来てくれて楽しく紹介できました。

Jica フェスタに参加して、ボリビア紹介以外に他の国の人や文化も見られて楽しいイベントでした。

8. 小さな島がくれた大きな出会い

色々な国の友達ができました。私にとって沖縄は世界の扉です。研修生や県費留学生、大学の留学生。国の話や趣味、勉強している事の話、一人一人から色々学ぶ事が出来ました。

沖縄では、多くの人に支えられました。

「アンリもう友達できた？」と心配してくれる友達。

大学の友達のおかげで笑顔いっぱい大学生活もおくれました。

沖縄に住むために必要な手続きを丁寧に教えてくれる財団のみなさん

私たち留学生、漢字がよめるように細かいメールを送ってくれる県庁の皆さん。

沖縄でたくさんの出会いがありました。

家族、伝統、友達、お世話になった方々がいっぱいです。

一生の「つながり」がいっぱいの一年をありがとうございました！

この一年間の歩み

比嘉 カロリーナ アンドレア

3年前、ブエノスアイレスで日本語を教え始めました。近所の日本文化センターにお願いされて、挑戦してみたい気持ちで土曜日の初級クラスの担当になりました。だんだん好きになってきたけど、困った時も多くて、本格的に勉強する事にしました。ある日、県人連合会で沖縄日系留学の募集宣伝を発見しました。私の大好きな沖縄で日本語の勉強ができれば最高だ!と思いました。以前、一度応募して落ちた経験があり、今回は問題なく受かるように準備しました。

意識がある頃から家族皆で沖縄連合会と触れ合いがあります。父は沖縄出身で、いつも沖縄と関係ある活動を応援しています。私はこんなに沖縄の事が好きな原因はそれほどわからないけど、実際、大好きです。両親の出身地の北中城村の在亜村人会の活動にも参加しています。この活動を通して、沖縄の命を大事にして、できるだけその気持ちを伝えていきます。10年前、北中城村の研修生として沖縄に来て、素晴らしい経験でした。親戚とホームステイして、父が生まれた所を知って、沖縄の色々な所を訪ねました。

県費留学生として日本語能力を向上させる事が私の目的です。帰国したら言語かあるいは通訳に関わる仕事をする事が私の目標でした。その目的をしっかりとって沖縄に来ました。しかし、この一年間の経験でその目的を大幅に超える事ができました。

日本語能力を向上するのにスペイン語を教える。

留学生は皆日本語の授業を取りました。毎週、先生は課題を説明し、宿題をだしたり、テストもありました。その勉強のおかげで12月に日本語能力試験のN2レベルを受かる事ができました。5年間ぶりに日本語に集中できて、合格して嬉しいです。名桜大学に言語学習



センターという「語学を学ぶ最良の場」がありました。英語で「Language Learning Center」で、「LLC」と略されていました。言語に興味がある学生をサポートできたらいいと思って、チューターとして活動をしました。英語やスペイン語を教えながら私の日本語力が自然に上がった事がLLCの魅力でした。アルゼンチンで日本語を教える経験があつて、スペイン語を教えるのはそれより簡単だと思いました。全く違っていました。質問がどんどん出てきて、外の言語が話せない学生に日本語で説明するしかなかった。だから、毎回、予習して頑張りました。それから、LLCの支援で名桜大学の第一回スペイン語スピーチ大会を行う事ができました。ペルー出身の友達と南米の文化を広げる大切さを感じて、この事業を実施しました。参加者の頑張る姿を見て、自分の文化を伝える誇りを感じて嬉しかったです。

寮の生活は多文化学習

アルゼンチンからの留学生は私しかなくて、初めて触れ合う文化が多くありました。頭にあったイメージと全く違う事があつて、毎日新しい出来事を楽しみにして過ごしました。辛い料理の苦手な韓国人、ビーチへ行かないタイ人、どんな料理でも美味しく作れるフィリピン人、スペイン語より日本語で話がしやすいボリビア人、お母さんみたいに優しくしてくれたブラジル人。食事会は毎回、国際交流の場となりました。それぞれの国の習慣を比べながら笑ったり驚いたりしました。一緒に過ごした時間を宝物にしていつまでも忘れません。

心の笑顔

おばさんの家を訪ねてゆっくりする事、「北中そば」の沖縄そばや手作り料理を食べたりする事、おばさんは実在の「かめーかめー」おばあです。「あなた、ちょっと太ってるね」と言うけど、ご飯をどんどんテーブルの上に出してくれる・・・高速バスの111番から見える名護の海の風景。那覇までの長い旅の最初の場所。それから、一時間の



大屋のおばあさんとティアさん



萩道の親戚

「siesta」。勉強のストレスが溜まったときはビーチで昼寝セラピー。タクシーのおじさんとゆんたく。美ら海水族館でウミガメを放流。三線の響き。エイサーの力。つらい時にこの気持ちを思い出して元気になるといいなー。

平和を学ぶ

8月に東南アジアの様々な国からの学生が平和を課題として名桜大学に勉強しに来ました。英語は共通語で、私は通訳として参加しました。このプログラムを通して、勇気のある人から話を聞く事ができました。例えば、沖縄県の元知事大田昌秀さんの研究所を訪ね、平和の色々な意味を知りました。東村の高江に座り込みによって抗議している住民に会いに行くと、ヘリポートの建設は彼らだけの問題ではなく、皆の悩みだと知りました。沖縄と米軍基地の問題をまた少し理解できて、大切な勉強になりました。

若者と未来を見つめる

2003年に沖縄に来て、多くの若い人たちは私みたいに海外で生まれたウチナーンチュの存在を知りませんでした。だから今、若者ウチナーンチュ連合会の活動を応援しています。毎年、連合会のメンバーは増えたり、入れ替わったりして、自分のルーツを知る事が大事だと気付く新しい世代が増えてきています。少しずつ、ウチナーの魅力をここに住んでいるウチナーンチュに伝え、海外のウチナーンチュに伝え、皆の力を合わせて世界に伝える事を目指して頑張っています。それから、小さい子供向けの事業があって、県費留学生の友達と学校を訪問して、遊びながら移民の説明をしたり、自分の国の紹介をしたりしました。思ったより南米の国の事を分かってくれてびっくりしました。この事業を通して、県費留学生として学んだ事を沖縄の人に少しでも返す事ができたと感じました。沖縄NGOセンターの皆様感謝しています。

この一年間に経験した事は全部勉強になりました。出会った人からいっぱい習いました。達成した目標があります。新しい目標を決めるのは今からの課題です。皆が力になって帰国する私は成長した新しい自分です。アルゼンチンで伝える事もたくさんあります。適切な方法を探して伝えるように頑張りたいと思います。私にとって架け橋になるのは、自分を通して、自分が道具、材料になって、外の人を繋ぐ事。でも、それは今から試すしかありません。

この一年間に会った皆さん、応援してくれた皆さん、gracias de corazon。これから私が架け橋になり、私を通して、新しい、素敵な出会いができたと思います。



県費留学生とONCの出前授業

ただいま

伊礼 リリアン 美樹枝 (ブラジル)

2012年4月、私は初めて日本に来ました。県費留学生として訪れた沖縄で、一息つく間もなくすぐに大学が始まりました。でも沖縄についた時から帰国するまで、外国にいる感じをしないと思っています。皆は優しいし、明るいし、ウチナーに来てよかったと思います。

私の誕生日は4月29日なので、親戚たちと伊江島のゆり祭りへ行きました。毎日雨降っていたけどタッチューに上る時に空が晴れて、おばさんと一緒に上まで登りました。階段は大変だったけど、行ってよかったです。風景は本当にきれいでした。そして、次の日はおじさんの家でパーティーをしました、とても楽しくケーキもおいしかったです。4月の終わりには留学生センターで“Welcome Party”があって、おいしい料理をたくさん食べました。南米の音楽もあり、新しい友達もできて本当に楽しかったです。

5月11日に那覇市で副知事と会いました。それから那覇市の留学生パーティーへ行きました。いろんな料理を食べて、エイサーとハワイダンスを見て、おもしろかったです。そのあと私たち県費留学生はカラオケへ行きました。たくさん歌って、踊ってから帰りました。



県費留学生仲間



副知事と

5月15日、私たち県費留学生は沖縄復帰40周年の記念式典に招待してもらいました。そして、夏川リミさんが涙そうそうを歌った時、感動のあまり皆（県費留学生）涙がこぼれました。本当にきれいでした。子供たちのダンスもおもしろかった、皆上手でした。



沖縄復帰 40 周年式典

6月23日、沖縄は慰霊の日で、この日は戦争のことを忘れないように沖縄は公休日になります。寮のみんなと一緒にお糸満市の平和の礎を訪れました。そこでは、沖縄戦で亡くなったすべての人の名前が石碑に刻まれていると聞きました。私は曾祖父の名前を見つけてお花を置きました。悲しいけれど、平和の大切さを感じることが出来る貴重な場所だと思います。世界中の人に訪れてほしいです。



平和の礎

7月に入り、最初の週末にはホームステイプログラムでブラジルの事をお話しました。そして、8日にエメラルドビーチでウミガメを流しました。その日にはJICAの留学生も合流して一緒にたくさん楽しみました。

7月12日に名古屋へ旅行しました。長い間会ってない従妹の家族に会うことが出来ました。そして、従妹がいろいろなところへ連れて行ってくれました。名古屋城とトヨタ自動車博物館（TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM）へ行ったり、遊園地で遊びました、本当に楽しかったです。

17日に沖縄に帰りました。名桜に戻ってきたらすぐに試験の時期でしたので、すごく忙しくなりました。期末試験は8月6日まで続きました。

8月16日に祖母の妹のお家で泊まりました。おばさんの息子、私にとっては従兄弟が、内地から帰ってきて、初めて会うことが出来ました。そして、祖母のお姉さんのお家にも足を伸ばしました。29日には、お盆で祖父のお兄さんのお家に泊まりました、そちらでお盆のお手伝いをしました。沖縄で初めてエイサーを見ました。



沖縄市のエイサー

9月にも県費留学生の仲間と水納島に行ったり、親戚には長野県や大阪に連れて行ってもらいました。夏休みはたくさん場所を訪れることが出来ました。

10月にはJICA FESTIVALとONCのプログラム（羽地中学校とこうり島小学校で自分の国の紹介）の準備で忙しかったです。

11月10日と11日はJICA FESTIVALがありました、私、カロ、美紀とダニエルは10日に自分の国の紹介をしました。



同じ教室にいろいろな国のポスターが貼っていましたが、韓国の伝統的な服を着てみたり、他の国のことを学べたり、良かったと思います。また、11月21日には羽地中学校に行きました、子供たちと一日遊んで来て良かったと思います。



羽地中学校

11月29日、寮の留学生と、那覇の留学生パーティへ行きました。ホテルで他の県費留学生と会って、ステージで踊って楽しかったです。



12月1日～2日は名桜祭でした。2日間大雨でしたけど、たくさん楽しめました。FLASH MOBに参加したり、友達のお店で手伝ったり、研修生と遊んだり本当に良かったと思います。親戚たちも来てくれました。

12月14日にこうり小学校へ行きました。学生は6名しかいなかったので来学期から学校が閉鎖されると聞きました。そのことを聞いて悲しくなりましたが、この1日子供たちとたくさん遊んで、皆の笑顔を見て、忘れられない思い出を作りました。23日に寮の友達と“クリスマスパーティ”をやりました。ケーキやチキンなどを食べて、皆と楽しいひと時をすごせました。12月の終わりには親戚の家へ行って沖縄のお正月の伝統食品を初めていただきました。年越しそばの意味も教えてくれて、いろんなことを学びました。

お正月が終わってすぐ、友達の成人式があり、日本の成人式を見ることが出来ました。2月13日～20日、県費留学生と大学の友達と東京旅行をしました。東京はとても寒くて、雪を初めて見ました。ジブリ、横浜の観覧車、秋葉原、浅草、鎌倉、原宿、六本木などを観光して、毎日楽しむことが出来ました。

東京から帰ってきてから修了式の準備を始めました。それから荷物の片付けを始め、寮から出るまで忙しい毎日でした。

修了式は県費留学生の最後のイベントでした。皆と別れるのは悲しいけど、新しい目標にむかうことを皆とちかいました。

最後まで楽しく過ごして、県費留学生と友達になって、色々な人と出会って、何年ぶりに会ってない親戚と会って、本当に嬉しいです。沖縄に来る機会ができて良かったと思います。

長いようで短い一年でした

平良 美紀 (ボリビア)

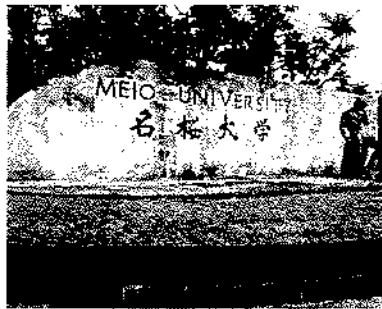
私はボリビアから来た平良美紀です。沖縄に来るのは初めてで、いつか祖父母出身地の沖縄に来るのが夢でした。まさかこんな早く来ることができ、しかも県費留学生として訪れることができ本当に嬉しかったです。

沖縄は祖父母から聞いた話以上に良い所でした。沖縄はのんびりした気持ちで過ごしやすい所で、ウチナータイムとかも何だか自分が住んでいる国とあまり変わらず、馴染みやすかったです。県民との交流は沖縄に着いて間もなく、全然知らない初めて会う人やおじいちゃん、おばあちゃんはとても親しみやすくて、孫に接しているように私に話しかけてくれたりしました。こんな風に親切にしてくれて、人情をすごく感じ心細かったものがどこかへとんでいきました。会う人皆がまるで家族のような気分になって実際の家族と近くにいるような気分です。

毎日が平和で穏やかな留学生生活を過ごす中で色々な経験や知識を身につけ、沢山の人達との出会いもあり、本当にこれまで私の人生に無かったとっても充実した楽しい日々を過ごしてきました。

大 学

私が希望していた名桜大学は、とても良い環境で自然の多い、素敵なキャンパスです。



前期はほとんど日本語の勉強をしました。そして後期は色々な科目を選択しました。先生はとっても分かりやすく丁寧に教えてくれました。

寮生活

名桜大学キャンパス内にある寮に住んでいました。にぎやかなところです。留学生と本土、地元の友達がいっぱいできました。毎日お互いに助けあったり、勉強したり、遊んだりして、また、誕生日パーティー、歓迎会、送別会、飲み会、食事は数回あって交流を深めることができました。

長期 夏休み・春休み

夏休みの間は9月14日から19日までは東京へ旅行しました。そこでは従兄弟にとってもお世話になりました。

春休みは2月13日から20日まで県費留学のメンバー6人と他の留学生と沖縄の友達と皆一緒に東京へ遊びに行きました。まさかこんな大勢の友達と行けるとは夢にも思っていませんでした。東京に行って沖縄との大きな違いが分かりました。沖縄では時間の流れがゆったりしているのに対し東京は周囲が皆忙しそうに動いているので、時間も早く過ぎていった様子が感じますが、東京を満足するまで沢山遊びました。

活動やイベント

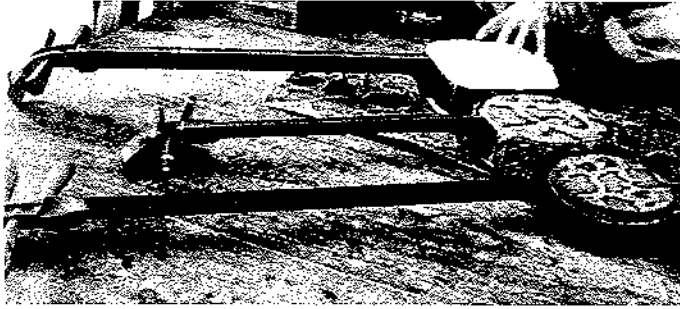
5月15日は沖縄県復帰40周年記念の式典に招待していただき、大変光栄に思っています。まさかこんな大きなお祝いに私も参加できると思いませんでした。式典では日本の総理大臣や沖縄県知事に初めてお目にかかり凄い感動を覚えました。その後は歌手の夏川りみの歌もあり、テレビの画面でしか見ることのない夏川りみをこんな間近で見ることができ感動しました。彼女の歌は皆が涙を流すほど素晴らしかったです。

平和学習として、慰霊の日には平和記念公園で開催された追悼式に参列しました。



7月20日は生まれて初めて船にのって伊江島まで行きました。伊江島は海がとっても綺麗で見るのが飽きなくて暗くなるまで眺めていました。伊江島にはまたいつか是非行きたいと思います。

8月15日から17日までの三日間は那覇市でインターンシップがありました。インターンは沖縄県産業振興公社での研修でした。勝山シークワサーに行ってお話を聞いたり、三味線屋さんで三味線の作り方のステップと説明をしてもらったり、“国立劇場おきなわ”に行ってお話を聞いたりしました。私にとっては新しい事ばかり学んで、とっても充実した三日間でした。



11月10日はJICA フェスティバルが行われました。そこで私達、県費留学生も参加させていただきました。自分達それぞれの国の紹介をすることで、日本人でボリビアって国を知ってる人はあまりいないので皆にボリビアのことを紹介することは本当に良かったと思います。一人でも多くの人にボリビアのことを知って欲しいからです。



11月29日は留学生等親善交流会がありました。そこでは沖縄にいる全ての留学生達が集まって交流する会で舞台の上で踊りや歌を発表して皆素晴らしかったです。

12月1日と2日は名桜祭でした。大学のそれぞれの部活が色々な出し物をしているのを見て、皆、気合が入って全力で自分達の出し物を売ろうとする学生さん達の熱意が伝わってきました。その間、音楽系サークルのライブやミニコンテスト、サークルの活動を紹介する展示とか見る物が沢山あり、私にとっては初めての名桜祭で楽しかったです。少し残念だったのは、その日は寒くて雨が降ってたことです。

私は初めて家族と離れた年末とお正月を迎えました。最初はちょっと寂しかったけど同じく家族と離れた留学生達と共にとっても楽しく過ごして本当に良かったです。



1月14日は名護市で成人式に招待され、沖縄で成人することができ私も家族も大喜びで良い経験になりました。

1月の末頃に読谷高校で出前授業をしました。私ともう一人ポリビアから来た名護の研修生と一緒に高校1年生の生徒の前で2時間もポリビアのことを話しました。そこではほとんどポリビアのサンタクルース市にあるオキナワ移住地の話をしました。

2月8日は留学生センターで送別会が行われ、帰国する留学生達それぞれのお別れのスピーチを聞きながら寂しい気持ち一杯で目頭が熱くなり涙がこぼれました。

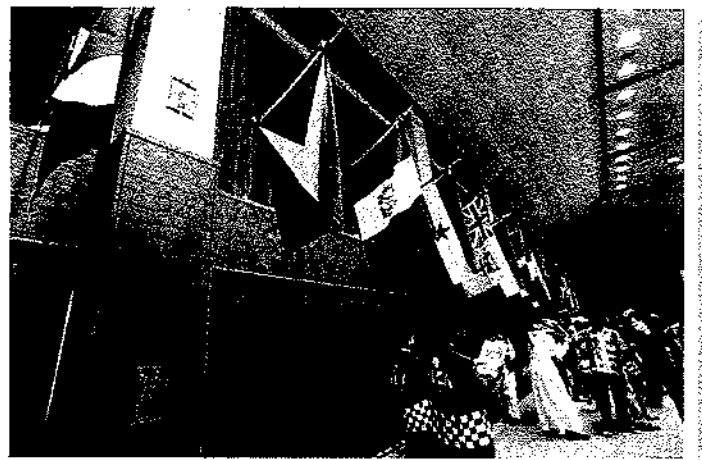


3月3日は親戚達と会いました。初めて会う人もいて皆とっても良い人達で初めて会った気がしないような気分でした。私が沖縄に来てから親戚にはよくお世話になりました。私の祖母の姉で本当に優しい人でよく私のことを心配をしてくれて電話をかけてくれました。こんなに思ってくれる人がいて私はとっても嬉しかったです。本当にありがとうございました。

3月12日は私達、県費留学生は無事修了式を終えました。

この一年間の思い出は一生の宝物です。色んな国の人と仲良くなれてそして沖縄の人達には本当に良くしてもらって「いちゃりばちょーでー」と言う言葉そのものを実感することができ最高の一年でした。県費留学というこんな素晴らしい機会を与えてくださって心から感謝します。帰国したら沖縄で得た知識、経験を活かし何かの役にたちたいです。最後になりましたが、沖縄県交流推進課と沖縄県国際交流・人材育成財団、他研修に携わった方々とそして沖縄県民の皆様には大変お世話になり、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

JICAフェスティバル



JICAフェスティバル



古宇利島学校訪問



古宇利島学校訪問の様子



古宇利島学校訪問



平成24年度 ウチナーンチュ子弟留学生修了報告書

発行 財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

〒901-2221

沖縄県宜野湾市伊佐四丁目2番16号

TEL: 098-942-9215

FAX: 098-942-9220

